

種の概要

駿河湾、紀伊半島、瀬戸内海、高知県、九州西岸に分布。内湾や外洋に面した湾口部等の潮間帯下部から水深20mの埋もれた岩礫の下に生息する。殻長17mm程度。殻は長楕円形で薄質、白色半透明、前後端はやや尖る。殻表は放射状の多数の微細な顆粒を伴い、常時軟体部が殻を覆っている。殻は閉じても90度位開き、両殻を密着して閉じることができない。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
			○	○			○

県内分布

洲本市

県内における生息状況及びその他特記事項

新規追加種。淡路島中部の数箇所の干潟で生息が確認されている。生息地はイナズマメアゲマキガイ(貝類Aランク)とほぼ同じであるが、主に冬の夜間調査で大潮干潮時に見られる。また、いずれの産地においても岩礫裏に2~3個体付着しているのを見るが、全体的には生息数は少ない。

保護上の留意点

比較的潮通しの良い内湾の礫の多い底床が砂泥干潟で、底床に浮き礫や半ば埋もれた礫岩が必要である。河口や内湾は護岸や埋め立てが頻繁に行われる場所であり、干潟環境を消失させないように配慮する。



写真提供：川渕千尋



写真提供：川渕千尋

【執筆者】 川渕千尋